

「新素形材産業ビジョン」の策定について

1. 背景及び目的

- 平成18年に「素形材産業ビジョン」を策定し、平成22年にその追補版を策定。しかし、その後、素形材産業を始めとする我が国のものづくり産業を取り巻く環境は急速に変化。
- 具体的には、
 - ✓ 東日本大震災を契機に、エネルギー供給面の著しい変化（原発停止に伴う電力価格の上昇、脱原発世論の高まり、再生可能エネルギーの活用等）
 - ✓ 我が国経済社会における構造的な変化（人口の減少、急速な少子高齢化、国内需要の縮小、公的債務の増加、本格的な低成長時代に突入）
 - ✓ アジア新興国企業の急激な追い上げに伴う、我が国企業の競争力・収益力の低下
 - ✓ 新興国における急激な需要拡大・市場拡大
 - ✓ 足元では、欧州債務危機に端を発した世界経済の後退、歴史的な円高の進行等
- こうした状況の下、製造業としての広い裾野を形成し、我が国のものづくりを支える基盤産業である素形材産業は、系列化されたサプライチェーン全体が急激に変化し、素形材産業における中小企業の集積も崩壊するリスクが高まっている。
- このため、素形材産業が今後目指すべき方向性について改めて議論し、「新素形材産業ビジョン」を本年度末までに策定する。

2. 検討項目

- (1)素形材産業の位置付け
- (2)素形材産業が目指すべき方向性
- (3)それぞれの関係者(素形材産業界、ユーザー産業界、政府、その他関係者)に求められる取組

3. スケジュール(案)

第1回(平成24年11月7日)

- ◇ 本委員会の趣旨説明
- ◇ 素形材産業の現状・課題の紹介

第2回(平成24年12月)

- ◇ 委員によるプレゼンテーション(その1)
- ◇ 調査分析結果のフィードバック(海外展開、財務分析等)

第3回(平成25年1月)

- ◇ 委員によるプレゼンテーション(その2)
- ◇ 調査分析結果のフィードバック

第4回(平成25年2月上旬)

- ◇ 調査分析結果のフィードバック
- ◇ 骨子案の作成

第5回(平成25年2月下旬)

- ◇ 中間取りまとめ

第6回(平成25年3月)

- ◇ 最終取りまとめ